







アスパラガス

1 作型

月	1			2			3			4			5			6		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作 型	(1年目)												(育苗)					
	(2年目) (株養成)																	
	(3年目以降) 露地普通栽培																	
	長期どり栽培  _____																	

月	1			2			3			4			5			6		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作 型	(1年目)												(株養成)					
	(2年目) (株養成)																	
	(3年目以降) 露地普通栽培																	
	長期どり栽培  _____																	

 : 播種
  : 定植
  : ハウス保温
  : 収穫

アピールポイント

- ・出荷時期：3月上旬～11月中旬。
- ・ハウスを利用することにより早春から11月中旬までの長期出荷が可能です。
- ・日照時間の多さや昼夜の寒暖差など気象に恵まれており、高品質なアスパラが生産されています。



2 各作型のポイント

(1) 露地普通栽培

品種はバイトル、ウエルカムなどのグリーンアスパラのほか、紫アスパラがあります。

播種後2～3年の養成期間が必要で、成園まで5～6年かかりますが、成園化すれば長期間の経済栽培ができます。

種皮が厚く硬いため、種子傷つけるなど吸水しやすくし、ぬるま湯に1～2日浸種してから播種します。発芽まで十分灌水し、乾燥しないよう敷きわらなどを行います。

播種当年の秋か翌春に定植します。長期間の栽培となるため、定植前に深耕、堆肥など有機質の施用などを行い根域を確保します。多肥を好むので窒素の施用効果は高いですが、地上部が過繁茂になると病害の発生や倒伏を招きやすくなるので注意します。幼茎が30cm前後になったころ、カマなどで地際より刈り取ります。出荷できない細茎や奇形茎、虫害を受けた茎なども刈り取り、ほ場に残さないようにします。細茎が多く発生するようになったら収穫を終了します。収穫終了後に除草します。

病害では茎枯病の防除を徹底します。降雨により伝染するので、防除を行うとともに、ビニールマルチや敷きワラを行い降雨によるドロはねを防ぎます。また雨よけ栽培を行うことにより茎枯病の発生が大幅に低減されます。害虫では、アブラムシやジュウシボシクビナガハムシが発生するので防除します。

(2) 長期どり栽培

品種は露地普通栽培と同じものを使用します。

春先の収穫に引き続き、株養成しながら収穫を続けます。5月上旬に1株当たり5本の茎を収穫しないで伸ばします。高さ50cmまでの下枝は除去します。

無加温ハウスを使うと収穫期間が拡大し、露地普通栽培の3倍以上の収穫量が望めます。降雨を受けないことから、茎枯病の予防にも効果があります。

1月にビニールで被覆し保温を始めます。4月以降は、ハウスサイドのビニールを除去して雨よけ状態にします。



(3) 各作型共通

株養成用の茎は、1.2mの高さで摘心し、フラワーネット等で倒伏しないようにします。

冬になり茎葉が枯れたら地際より刈り取ります。刈り取った茎葉はほ場外へ持ち出し処分します。